

—すべての子どもに豊かな教育を—

「きこえにくさ」・「見えにくさ」

気づきから支援へ

和歌山県教育委員会では、平成26年10月から12月にかけて、県内すべての公立学校を対象に、「聴覚支援、視覚支援体制の充実にに向けた県内実態調査」を実施しました。

調査目的並びに調査対象となった校種、学校数、児童生徒数は、次のとおりです。

【目的】

きこえ、見え方に課題があると想定される児童生徒の県内在籍状況等の把握を行い、特別支援学校のセンター的機能を生かした聴覚・視覚支援に係る県内連携体制のあり方を探る。

【対象校数、児童生徒数】（調査基点 平成26年9月1日現在）

| | | |
|---------------|------|-------------------|
| 小学校 | 249校 | 47,795人 |
| 中学校 | 127校 | 25,669人(県立中学校を含む) |
| 高等学校(全日制・定時制) | 49校 | 23,452人(市立を含む) |
| 特別支援学校 | 11校 | 1,350人 |

(本リーフレットの調査結果概要は、小・中・高等学校から得られたデータで分析等を行っています。)

ここに、県内すべての公立学校において、きこえにくさや見えにくさのある児童生徒への理解を深め、基本的な対応のあり方について共有が図られるよう、上記調査結果の概要とともに、学校での配慮・支援例等を記した理解啓発リーフレットを作成しましたので、各校において積極的な活用をお願いします。

和歌山ろう学校
はまゆう支援学校
きのかわ支援学校
みくまの支援学校
和歌山盲学校

聴覚支援体制連携4校

和歌山県教育庁学校教育局県立学校教育課特別支援教育室

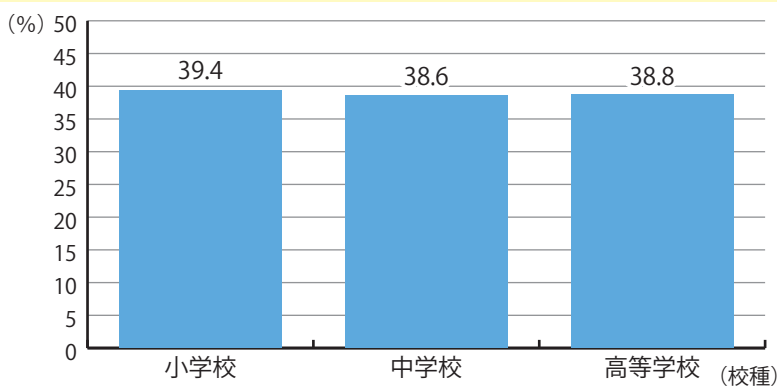
平成28年1月



地球環境保護のために、再生紙とベジタブルインキを使用しています。

【きこえ】に関する県内実態調査(平成26年度)から…公立小・中・高等学校

① 両側性難聴・一側性難聴及び難聴疑いのある児童生徒が在籍する学校の割合



両側性難聴・一側性難聴及び難聴疑いのある児童生徒が、公立小・中・高等学校数の約4割の学校に在籍していることがわかりました。

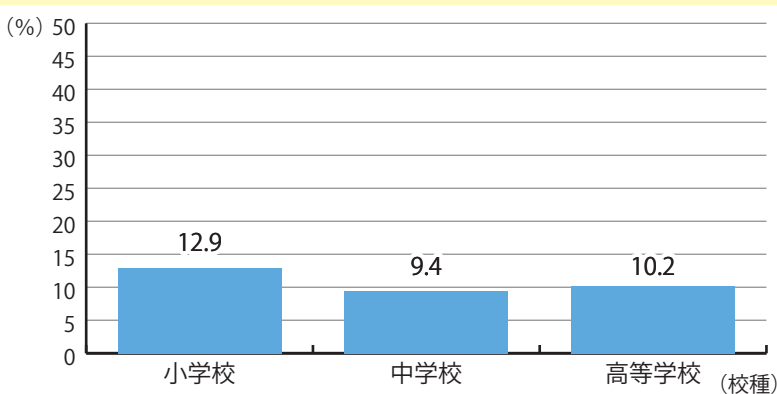
【該当学校数(児童生徒数)】

小学校 ……98校(185人)
 中学校 ……49校(89人)
 高等学校 ……19校(31人)

■「一側性難聴」とは？

片側の耳はきこえるけれど、もう一方の耳はきこえにくい障害です。音の方向感がわかりにくく、体育館などの音が響く環境や運動場など広い場所ではきこえにくいことがあります。**周りの人たちの気づきと支援がとても大切です。**

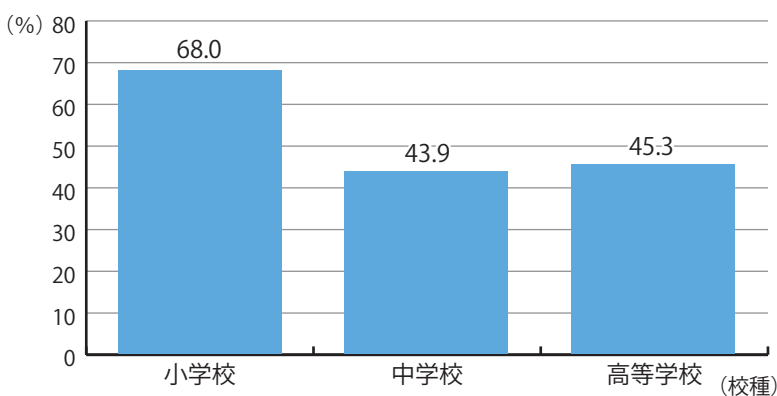
② 補聴器や人工内耳を装用している児童生徒が在籍する学校の割合



補聴器や人工内耳を装用した児童生徒が、おおむね10校中1校の割合で在籍していることがわかりました。

和歌山県では、身体障害者手帳(聴覚)を持っていない子どもへの「和歌山県難聴児補聴器購入費補助事業費補助金交付制度」が平成25年度から始まりました。

③ 定期健診後に耳鼻科受診を勧められ、受診した児童生徒の割合



小学校段階と比較して、中学校、高等学校段階で受診率が低くなっていることがわかりました。校種別の未受診者数等は、以下のとおりです。

【未受診者数/受診を勧めた人数及びその割合】

小 …… 907人/2832人(32.0%)
 中 …… 512人/ 912人(56.1%)
 高 …… 88人/ 161人(54.7%)

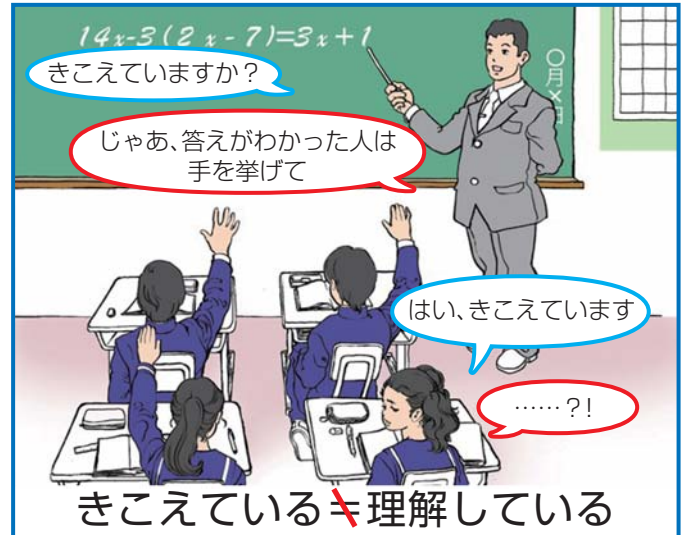
■必ず受診！ 聴力の確認を！

難聴や難聴の原因となる疾患を改善できない状態で学校生活を送っている児童生徒がいます。「きこえにくさ」のある子どもたちに**できるだけ早く気づき、早い段階からの適切な支援がとても大切です。**

きこえ 2

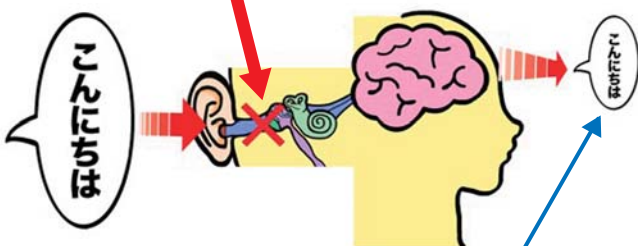
こんなことはありませんか？ ～もしかしたら きこえにくさに関係しているかもしれません～

- 会話の時、きき返すことがよくある
- 状況判断で動いていることが多い
- 発音が不明瞭である
- 雑音があるとよくきき取れない
- 体育館や運動場などの広い場所できき取れないことがある
- 中耳炎を繰り返したことがある
- 新生児聴覚スクリーニング検査の後で精密検査を受けたことがある
- 話し声が大きい
- 後ろから呼びかけると気づかないことがある
- ことばを誤って覚えている



きこえにくさ

がいじどう じしょうこつ
外耳道や鼓膜・耳小骨などに障害がある

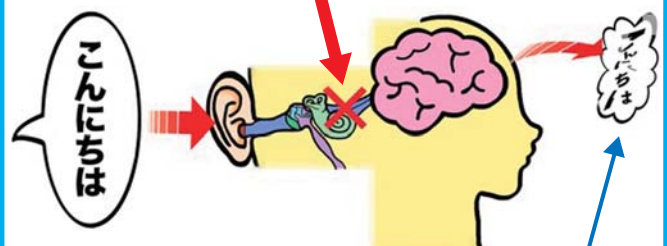


小さくきこえる

(例) 中耳炎 外耳道閉鎖 / 小耳症 など

音を大きくすると、きこえやすくなる

ないじ
内耳や聴神経などに障害がある



小さくひずんできこえる

(例) 先天性難聴 ムンプス難聴 突発性難聴 など

声はきこえるが、ことばはわからない

※きこえにくさには、上記の2つの障害を併せ持った場合もあります。

「難聴」とは…

きこえにくいことを「難聴」といいますが、その程度やきこえ方は一人一人違います。
「きこえますか？」と尋ねると「はい」と答えるなど、本人が難聴を自覚していないことがあります。
外見上わかりにくいので、周囲が「難聴」に気づかないことが多いです。
また、きこえはことばの獲得に影響があります。

学校での支援・配慮例 ～きこえにくさ～

誰が発言しているかがわかるようにする
→挙手をしてから話す
→みんなの前に出て発表する

視覚教材を活用する

ゆっくり、はっきり
子どもたちに顔を見せて話す
→口形や表情を見せて！
→板書しながら話さない！

きこえにくい
ほろよろきとほ...

話のキーワード
を書く

スピーカーや補聴援助システム等、
補聴手段を活用する

静かな環境にする
→「窓を閉める」「机・椅子への
脚キャップの装着」など、
消音の工夫を行う

【補聴援助システムって？】

話し手の声をマイクで拾い、直接、子どもの耳（補聴器や人工内耳）に届けるもの。周囲の騒音の影響を受けにくくなります。
教員は送信機（上図①）を装着し、口元にあるマイクに向かって話します。
子どもは補聴器や人工内耳に受信機（上図②）をつけ、送信機を持った教員や周囲の子どもの声をききます。

～教室は、様々な音であふれています！～

ザワザワ

ウィーン
ウィーン

グーン
グーン

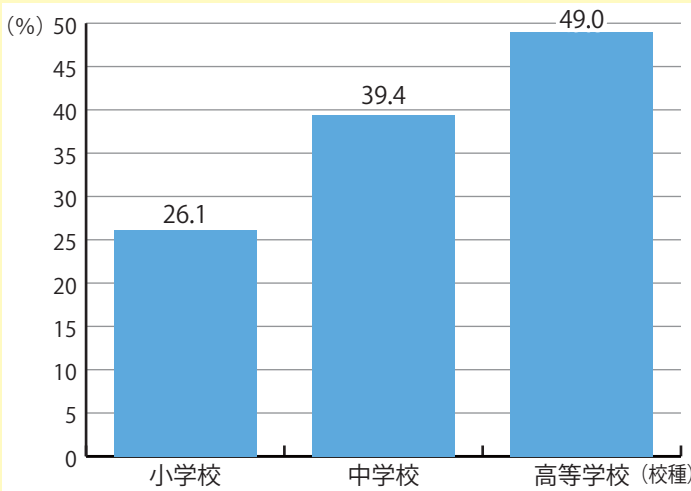
ガチャーン

きこえにくい子どもたちには、ききやすい環境づくりが必要です

見え方 1

【見え方】に関する県内実態調査(平成26年度)から…公立小・中・高等学校

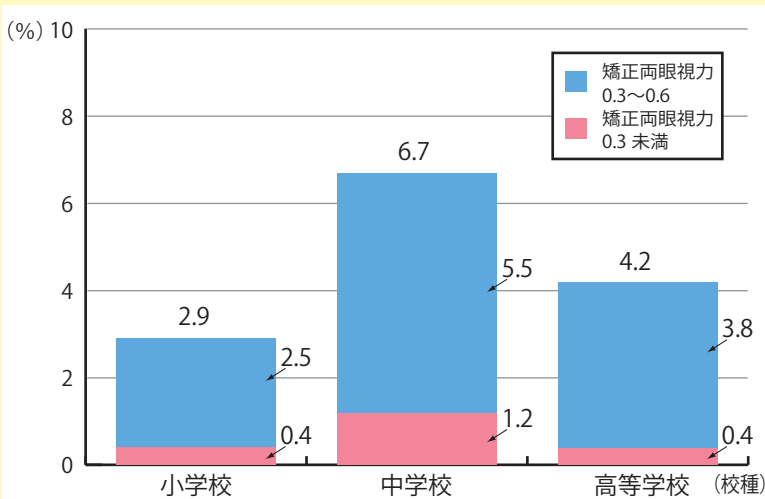
① 矯正両眼視力0.3未満の児童生徒が在籍する学校の割合



小・中・高と割合が高くなっていくのは、1校あたりの総児童生徒数が多くなっていくことが、一つの要因と考えられます。しかし、矯正両眼視力0.3未満の児童生徒が、おおむね、小学校では4校に1校、中学校では5校に2校、高等学校では2校に1校の割合で在籍していることがわかりました。

矯正両眼視力が0.3未満の場合、教育的には「弱視」の範疇となります。座席位置を前方にしても、板書を「はっきりと見る」ことができない状態になります。

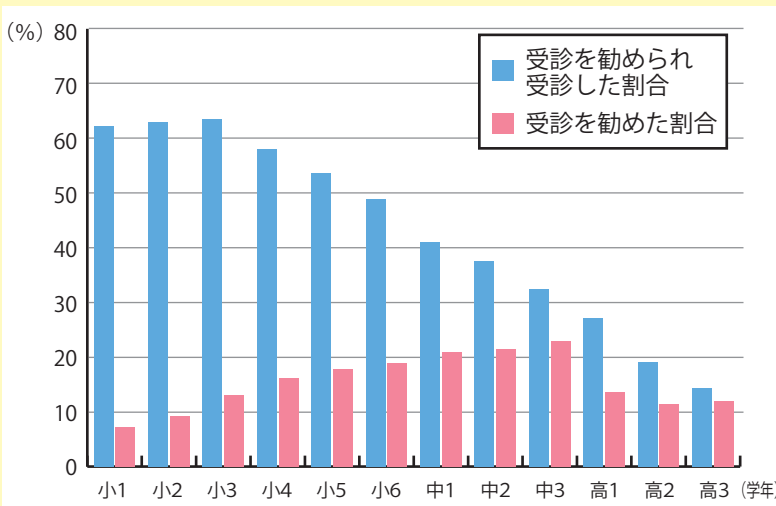
② 矯正両眼視力0.6以下の児童生徒の割合



矯正両眼視力による今回の調査結果では、矯正後、0.6以下の児童生徒が小学校で2.9%、中学校で6.7%、高等学校では4.2%在籍していることがわかりました。見えにくさを自分で感じていない子どももいますが、「矯正後0.6以下」とは、学習上又は生活上の困難さを呈する状態であると考えられます。

「はっきりと見る」ためには、まずは、視力等、「見る」について再度確認し、見やすい環境を整えることが必要です。

③ 定期健診後に眼科受診を勧めた児童生徒の割合と受診した児童生徒の割合



年齢が上がるにつれて、眼科受診を勧める割合が多くなる一方で、眼科受診率が低くなっています。

子ども自身が自分の見えの状況についてよく知るためにも眼科受診は大切です。

また、生活年齢が低いほど、周囲の大人による子どもの困難さへの気づきが大切になってきます。

見え方 2

こんなことはありませんか？ ~もしかしたら 見えにくさに関係しているかもしれません~

- 読み（漢字）・書きが定着しない
 - ・漢字や地図を読むのが苦手
 - ・本を読むとき行をとばす
- 細かい作業、あるいは、書写に時間がかかる
 - ・集中しにくく落ち着きがない
- 準備や整理がうまくできない
- 算数（数学）での図形学習が定着しない
 - ・図形の位置が変わると違う形に見える
 - ・図を見て、立体感がわからない
- スポーツ（特に球技）が不得手である
 - ・距離感がつかめない
- まぶしさを感じることが多い



学校で交わされる会話に
「見えていますか？」
「はい。見えています。」
 と、よく聞くことがあります。
 本当に大丈夫なのでしょうか？



◆年齢によっては、次のような「見えています」もありますので、慎重に対応する必要があります。

小学校高学年 → 中学校・高等学校 →

「はっきりと見る」ことがよく理解できていないため、「見えています」となる。

自分の見え方より周りを気にするあまり「見えています」となる。

2通りの見えにくさ

視力による見えにくさ

- ◆近視（近くははっきり見え、遠くがぼやける）
- ◆遠視（長く見続けられない、あるいは、調整できず、遠くも近くもぼやける）
- ◆乱視（二重に見えたり、ゆがんで見える）
- ◆左右の視力が極端に違う
- ◆よく見える範囲が狭い（よく見える範囲では、視力がよいこともあります）

ピンボケ状態



よく見える範囲が狭い状態



■5mと30cmの距離視力を測ると異なることがあります。近距離が見えにくい遠視の場合は「なるべく早い時期」に眼鏡をかけて訓練する必要があります。

視力によらない見えにくさ

- ◆漢字の書き間違いが多い
- ◆文字のバランスがとれない
- ◆別紙解答用紙だと記入間違いが目立つ
- ◆読書で行飛ばしが多い
- ◆眼が疲れて集中が続かない・・・!?
- ◆書写に時間がかかる
- ◆距離感がつかめない



■眼（調節機能・動き・色覚・光覚等）の機能や形・空間的な位置関係を認知する等の苦手さからくる、「見えにくさ」があります。

※色の見え方や感じ方には、個人差があります。学習指導において、色の判別を要する場合には、誰でも色別しやすい配色で構成し、色以外の情報も加える工夫が必要です。
 （参考：「色覚に関する指導の資料」（文部科学省））

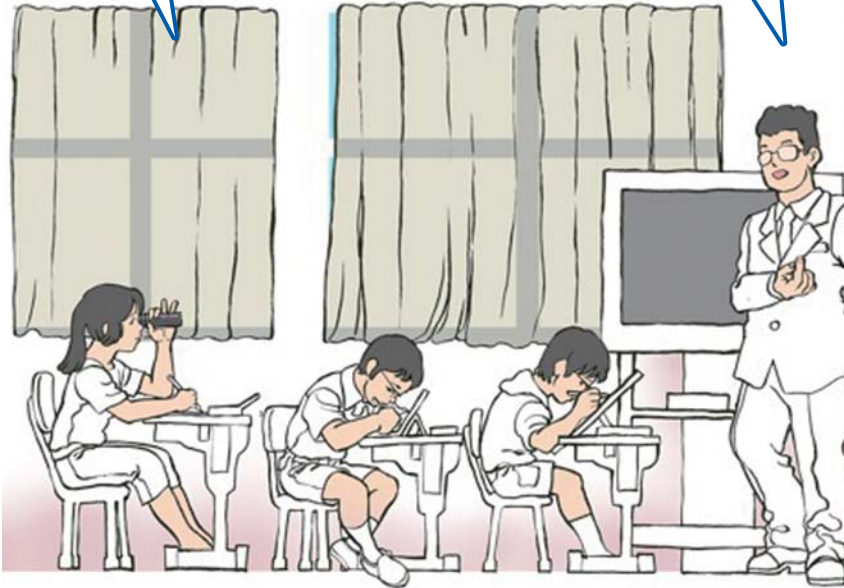
見え方 ③

学校での支援・配慮例 ～見えにくさ～

まぶしさや暗さを調整する
→照度の調整(カーテン・卓上灯等)

言葉を添えると同時に、
イメージしやすい説明をする

見やすくする
→文字間隔をあける
→背景色と文字色のコントラストを高める
→マークやマグネットシートで強調する



使いやすい用具を選ぶ
→単眼鏡・ルーペ
→傾斜机、拡大教科書
→目盛りや表示文字が見やすいもの

支援機器を活用する
→板書を記録(カメラ機能)
→図鑑・辞書ソフトの活用
→デジタルデータ(教科書等)の活用

単眼鏡は遠くの文字を

ルーペは近くの文字を拡大して見ることができる用具です。

傾斜机とは、机を斜めにすることで、眼疾患への配慮・照度の確保・正しい姿勢を保持できる机です。



見やすさは

興味関心・集中を持続させやすく、見て確認する姿勢を育てます

【支援例】 大きさ・太さの工夫、適切な文字フォント、文の分かち書き、輪郭線の強調、取り組み時間の延長、地図情報の精選、段差や透明硝子への目印 など

使いやすい用具は

負担軽減につながり、操作性・効率性・安全性を高めます

【支援例】 太く・濃い筆記用具、罫線幅が広いノート、ピンポイントで消せる細めの消しゴム、まぶしさ軽減遮光眼鏡、安全防御眼鏡 など

支援機器は

効果的に組み合わせることで、個々の学習理解や様々な活動への参加を促します

【支援例】 デジタル映像の活用(動きのあるもの、近づけないものを見るとき) 扱いやすい機器(ボタンが見やすい、音声機能がある)、拡大読書器 など

「見る」教材工夫のワンポイント

「よくわかる」につながり、基礎的な学習の積み上げにつながります

【支援例】 種類別に色と模様や色と形で分類する(※1)、黒背景の利用で目立たせる(※2)、絵図情報と文字表記を併用する、トレーや付箋の活用で整理し管理する、漢字は大文字サイズで提示する、触ることができる教材(立体模型等) など

※1 →

※2 →



40%

35%

25%

コラム

子どもたちの悩み・気持ち ～和歌山ろう学校～



話し声はきこえるけれど、何を言っているかわからない時がある

きこえにくいことがあるのに、わかってもらえない

きこえにくいことを周りに言いにくい

どうして自分だけきこえないの

休憩時間はうるさくて会話がわかりにくいので、1人で過ごしていることが多い

きこえにくさのある仲間と会うと、ほっとする

手話を覚えて会話が楽しくなった

話がわかるようになったので学校が楽しくなった

補聴器や人工内耳があると、先生や友だちの話がききやすい



子どもたちが楽しい学校生活を過ごすために、きこえにくさへの周囲の理解が大切です

「はっきりと見る」 ～和歌山盲学校～



一般的に、私たちの得る情報の80%は「見る」に頼っていると言われていいます。しかし、その「見る」に何らかの障害があると「学習(読み書き等)」「スポーツ(球技等)」「コミュニケーション」などに影響が出てきます。さらには受身的な活動になる、あるいは、孤立感を感じるということもあります。

「はっきりと見る」こと

本校では、「はっきりと見る」ことを大切にしています。「はっきりと見る」とは、視力のみ頼っているということではありません。触覚や聴覚などを使って「はっきりと見る」ことも指導しています。この場合は「見る」というより「感じる」「イメージする」といった言葉が適切かもしれませんが、様々な感覚をとおした「見る」があって初めて、深く理解できると考えています。「はっきりと見る」ことは、学習やスポーツ・コミュニケーションにとっても効果的であると考えています。

「はっきりと見る」ための第一歩！

- ① 見えにくさは、状況によって変わります。眼科受診を勧められた場合は必ず受診を！
- ② 自分自身の見え方について理解する(理解できる)こと、また、生活年齢を踏まえた周囲の理解と対応が大切です。